発行　ごみ・環境ビジョン21（ごみかん）　2025.9.29

ごみっと・SUN

vol. 51
通算 171 号

だいぶ涼しくなりましたね。
夏日のハイキングと、秋らしい日のハイキングの光景を並べてみました。

イラストと文　井上ヤスミチ

▶ 02　多摩 30 自治体「ごみ減量・資源化比較」（2024 年版）
▶ 10　多摩地域のごみ減量施策を読み解く（山谷修作）
　連載第 1 回　大きな減量成果をもたらした家庭ごみ有料化
▶ 13　ドイツのエコ「戦後 80 年の広島・長崎訪問記」
▶ 14　さらなるごみ資源化を進めるには
▶ 16　ごみかんよりお知らせ

ごみ・環境ビジョン21

〒 184-0013
東京都小金井市前原町 4-11-15 井上方
tel 080-1131-6205（井上）fax 042-383-1668
e-mail : gomikan21@yahoo.co.jp
ホームページ：https://gomikan21.com

特別リポート

東京多摩地域 30 自治体の「ごみ減量・資源化」を比較する（2024 年度）

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員　小野寺 勲

３大ごみに着目して東京多摩地域 30 自治体のごみ減量･資源化の比較を行いました。分析のベースとなるごみ種別の排出量は、一般に行われているように、ごみ組成調査結果を用いて推計しました。ごみ組成調査データは精度に難があり、この分析データでも不規則変動が散見されますが、それは限定的なものです。

この分析データが、さらなるごみ減量・資源化のターゲットの設定など戦略目標を定める際の参考になれば幸いです。

１人１日当たりのごみ排出量（集団回収を除く）

＊分析データは６・７ページ掲載

多摩地域全体の総ごみの１人１日当たり排出量は、2020 年度にコロナ禍による“巣ごもり”の影響で一時増加したが、趨勢としては、2003 年度をピークに緩やかな減少が続いています。

ごみ種別に見ると、生ごみは、2020 年度に一時増加したものの、ピークをつけてからは、減少傾向にあります。紙ごみとプラスチックごみは、ピークからの減少が止まった後、おおむね横ばいで推移していたが、紙ごみは 2022 年度から、プラスチックごみは 2023 年度から減少に転じています。

2023 年度の１人１日当たり総ごみ排出量でのベスト 10 とワースト 10（4 町村を除く）を以下に示します。

これらの自治体では、３大ごみのいずれかがその１人１日当たり排出量でベスト 10 またはワースト 10 に入っているケースが多い。

＜ベスト 10＞

総ごみ排出量でのベスト 10	3 大ごみでの順位			総ごみ排出量でのベスト 10	3 大ごみでの順位		
	生ごみ	紙ごみ	プラごみ		生ごみ	紙ごみ	プラごみ
①日野市	**6**	**6**	12	⑥西東京市	15	**2**	17
②小金井市	13	**8**	**4**	⑦東村山市	**10**	15	**8**
③国分寺市	21	**1**	21	⑧小平市	**9**	23	**6**
④府中市	16	**9**	**5**	⑨狛江市	14	16	19
⑤東大和市	**8**	21	**3**	⑩清瀬市	17	**3**	16

＜ワースト 10＞（4 町村を除く）

総ごみ排出量でのワースト 10	3 大ごみでの順位			総ごみ排出量でのワースト 10	3 大ごみでの順位		
	生ごみ	紙ごみ	プラごみ		生ごみ	紙ごみ	プラごみ
㉖あきる野市	**23**	20	11	㉑昭島市	**22**	10	10
㉕羽村市	5	**24**	**22**	⑳八王子市	**27**	14	7
㉔青梅市	7	17	**27**	⑲町田市	4	13	**28**
㉓武蔵野市	**28**	19	**23**	⑱武蔵村山市	11	**26**	13
㉒福生市	3	18	**24**	⑰立川市	2	**27**	**30**

総資源化率（集団回収を含む）　＊分析データは８・９ページに掲載

多摩地域全体の趨勢として、総ごみの総資源化率は 2010 年度に 37%台に乗せた後、横ばいが続いていたが、2023 年度から低下しています。ごみ種別には、プラスチックごみでは容リ法の施行以来、緩やかな上昇が続いているのと対称的に、紙ごみでは 2010 年度をピークに低下傾向にあります。

2023 年度の総ごみの総資源化率でのベスト 10 は以下のとおりです。

これらの自治体では、3 大ごみのいずれかがその総資源化率でベスト 10 入りしているケースが多い。

総ごみでのベスト 10	3 大ごみでの順位		総ごみでのベスト 10	3 大ごみでの順位	
	紙ごみ	プラごみ		紙ごみ	プラごみ
①国分寺市	**1**	**2**	⑥狛江市	**6**	23
②小金井市	**3**	**7**	⑦東久留米市	**10**	**9**
③東村山市	18	**3**	⑧府中市	15	**10**
④西東京市	**7**	**4**	⑨小平市	23	13
⑤立川市	27	20	⑩日野市	12	**6**

定義・算出方法

原データ：（公財）東京市町村自治調査会『多摩地域ごみ実態調査』（2022 年～ 2024 年度統計）

表１　ごみ種別排出量（集団回収を除く）

- 総ごみ排出量（ｔ / 年）＝収集ごみ量＋持込ごみ量（原データそのもの）
- 生ごみ排出量（ｔ / 年）＝可燃ごみ量×厨芥の構成比（湿ベース）
- 紙ごみ排出量（ｔ / 年）＝可燃ごみ量×紙類・その他可燃物の構成比（湿ベース）＋資源ごみ（＊）の紙類・紙パック
- プラスチックごみ排出量（ｔ / 年）＝可燃ごみ量×プラスチック・その他不燃物の構成比（湿ベース）＋不燃ごみ量×プラスチック・その他不燃物の構成比（湿ベース）＋資源ごみのペットボトル・発泡トレイ・その他　＊収集後資源化を除く（以下同様）。

※１．原データにおいて、可燃ごみ、不燃ごみの組成が乾ベースでしか記載されていない場合は、（社）全国都市清掃会議『ごみ処理施設整備の計画・設計要領』の各ごみ種の含水率を用いて湿ベースに換算。

※２．可燃ごみ、不燃ごみの組成データが湿ベース、乾ベースともない場合は、過去の直近のデータを適用。

表２　ごみ種別１人１日当たり排出量（集団回収を除く）

- １人１日当たり総ごみ排出量（ｇ / 人日）＝総ごみ排出量÷人口÷ 365 日（または 366 日）× 10^6（原データそのもの）
- １人１日当たり生ごみ排出量（ｇ / 人日）＝生ごみ排出量÷人口÷ 365 日（または 366 日）× 10^6
- １人１日当たり紙ごみ排出量（ｇ / 人日）＝紙ごみ排出量÷人口÷ 365 日（または 366 日）× 10^6
- １人１日当たりプラスチックごみ排出量（ｇ / 人日）＝プラスチックごみ排出量÷人口÷ 365 日（または 366 日）× 10^6

※ 10 月 1 日現在の人口（住民基本台帳人口＋外国人登録人口）と 365 日（2023 年度は 366 日）で除して算出。

表３　ごみ種別総資源化率（集団回収を含む）　※生ごみの総資源化率は、データがなく算出不能。

- 総ごみの総資源化率（%）＝（資源ごみ＋収集後資源化量（＊）＋集団回収量）÷（総ごみ排出量＋集団回収量）× 100（原データそのもの）　＊収集後資源化量には、焼却灰のエコセメント化・スラグ化を含む。
- 紙ごみの総資源化率（%）＝（資源ごみの紙類・紙パック＋集団回収の紙類・紙パック）÷（紙ごみ排出量＋集団回収の紙類・紙パック）× 100
- プラスチックごみの総資源化率（%）＝（資源ごみのペットボトル・発泡トレイ・その他＋集団回収のペットボトル・発泡トレイ・その他）÷（プラスチックごみ排出量＋集団回収のペットボトル・発泡トレイ・その他）× 100

表１－１　ごみ種別排出量（集団回収を除く）　＜その１＞

（ｔ/年）

自治体名	総ごみ				生ごみ			
	2022 年度	2023 年度	2024 年度	前年度比	2022 年度	2023 年度	2024 年度	前年度比
八王子市	143,597	138,099	136,364	−1,735	44,070	38,970	39,102	+131
立川市	42,393	44,746	44,520	−226	6,807	4,213	3,475	−738
武蔵野市	39,295	38,171	38,351	+180	10,143	9,955	10,405	+449
三鷹市	44,631	43,136	42,693	−443	2,854	2,629	2,650	+21
青梅市	36,216	34,610	34,098	−512	3,899	4,864	4,294	−570
府中市	58,213	56,126	55,536	−590	13,515	13,218	11,929	−1,289
昭島市	29,545	28,477	28,265	−212	8,129	5,930	6,715	+785
調布市	57,526	55,781	55,368	−413	17,347	14,874	14,857	−17
町田市	107,824	104,797	103,533	−1,264	13,059	20,913	13,194	−7,719
小金井市	26,936	25,940	26,006	+66	5,702	5,693	5,221	−472
小平市	45,243	43,575	43,268	−307	5,575	6,319	6,623	+304
日野市	40,763	39,305	38,826	−479	9,504	5,360	6,141	+781
東村山市	34,739	33,588	33,194	−394	6,326	2,266	5,327	+3,061
国分寺市	28,414	27,495	27,201	−294	8,097	8,040	7,565	−475
国立市	18,726	18,299	17,886	−413	4,377	4,391	4,512	+121
福生市	14,802	14,247	13,989	−258	1,502	1,904	1,667	−237
狛江市	19,439	18,622	18,170	−452	3,510	4,282	3,466	−816
東大和市	19,235	18,296	18,092	−204	2,512	1,383	2,855	+1,472
清瀬市	17,343	16,832	16,690	−142	2,675	2,657	3,599	+942
東久留米市	29,420	28,377	27,701	−676	4,622	4,530	6,008	+1,478
武蔵村山市	18,992	17,043	16,929	−114	2,375	2,604	2,604	0
多摩市	36,456	35,085	34,712	−373	6,899	6,945	7,247	+302
稲城市	22,694	22,003	22,018	+15	4,656	6,967	4,529	−2,438
羽村市	15,397	14,908	14,380	−528	1,553	1,975	1,691	−284
あきる野市	22,415	21,448	21,318	−130	4,349	5,304	4,661	−643
西東京市	46,226	44,868	44,138	−730	6,646	6,543	8,756	+2,213
瑞穂町	10,601	10,159	10,002	−157	1,105	1,390	1,223	−167
日の出町	4,746	4,626	4,573	−53	983	1,229	1,076	−153
檜原村	768	766	714	−52	142	177	151	−27
奥多摩町	1,744	1,650	1,585	−65	319	388	333	−55
合計	1,034,339	1,001,075	990,120	−10,955	203,253	195,915	191,878	−4,037

※武蔵村山市は、2022 年 10 月から家庭ごみ有料化を実施（処理手数料は 2 円/ℓ）。

表１－２　ごみ種別排出量（集団回収を除く）　＜その２＞

（ｔ/年）

自治体名	紙ごみ				プラスチックごみ			
	2022 年度	2023 年度	2024 年度	前年度比	2022 年度	2023 年度	2024 年度	前年度比
八王子市	49,404	51,328	49,374	−1,954	23,520	22,180	22,094	−86
立川市	18,105	20,930	21,326	+396	9,240	10,776	12,356	+1,580
武蔵野市	15,454	14,973	14,477	−496	6,958	6,761	7,530	+769
三鷹市	15,514	15,920	15,219	−701	8,105	8,474	7,670	−804
青梅市	13,655	14,233	12,009	−2,225	7,507	5,966	7,299	+1,332
府中市	23,808	20,916	21,919	+1,003	9,427	8,882	9,836	+954
昭島市	10,826	11,261	9,653	−1,607	4,881	4,464	4,694	+229
調布市	20,457	19,853	19,631	−223	8,810	8,876	7,441	−1,436
町田市	39,659	35,371	37,833	+2,462	25,496	22,845	24,438	+1,593
小金井市	10,230	9,733	10,390	+657	4,634	4,594	4,636	+42
小平市	23,186	21,520	20,434	−1,086	8,014	7,130	7,496	+366
日野市	14,730	15,728	15,060	−669	8,042	8,172	7,917	−255
東村山市	12,415	14,136	13,462	−673	5,939	5,515	6,110	+595
国分寺市	9,375	8,575	8,833	+258	6,367	6,180	6,197	+17
国立市	6,373	7,066	6,405	−661	3,109	2,949	1,341	−1,608
福生市	5,861	6,129	5,281	−848	3,050	2,446	2,933	+487
狛江市	6,907	7,110	7,461	+351	6,406	4,026	3,776	−250
東大和市	9,887	9,624	8,552	−1,072	3,372	3,716	3,140	−576
清瀬市	6,190	6,246	5,907	−339	3,910	3,338	3,382	+44
東久留米市	10,856	10,728	10,030	−698	6,228	5,259	5,230	−28
武蔵村山市	9,411	8,290	7,875	−415	3,529	2,865	3,078	+213
多摩市	17,119	15,283	16,017	+734	7,584	7,695	6,576	−1,119
稲城市	8,713	7,402	7,427	+25	4,430	4,325	4,492	+168
羽村市	6,327	6,612	5,645	−968	2,865	2,116	2,603	+487
あきる野市	8,884	7,008	7,974	+966	4,082	4,098	3,314	−784
西東京市	16,603	16,419	15,399	−1,019	10,636	9,312	9,333	+21
瑞穂町	4,215	4,366	3,740	−626	2,184	1,724	2,079	+354
日の出町	1,844	1,459	1,674	+215	900	926	739	−186
檜原村	298	242	260	+18	134	139	107	−32
奥多摩町	699	556	608	+52	309	308	244	−64
合計	397,007	389,014	379,872	−9,142	199,670	186,057	188,082	+2,025

表２－１　ごみ種別１人１日当たり排出量（集団回収を除く）　＜その１＞

（g / 人日）

自治体名	総ごみ						生ごみ					
	2022 年度	順位	2023 年度	順位	2024 年度	順位	2022 年度	順位	2023 年度	順位	2024 年度	順位
八王子市	699.3	19	672.7	20	667.4	20	214.6	30	189.8	26	191.4	27
立川市	625.9	7	658.3	17	654.9	17	100.5	12	62.0	4	51.1	2
武蔵野市	726.1	22	704.3	23	708.4	23	187.4	26	183.7	25	192.2	28
三鷹市	642.3	11	619.9	11	613.7	11	41.1	1	37.8	1	38.1	1
青梅市	760.4	24	730.0	24	722.8	24	81.9	6	102.6	12	91.0	7
府中市	612.1	4	589.2	5	582.8	4	142.1	20	138.8	18	125.2	16
昭島市	708.6	20	680.1	21	673.7	21	195.0	28	141.6	19	160.1	22
調布市	660.2	13	638.2	12	633.2	12	199.1	29	170.2	22	169.9	25
町田市	685.2	17	664.8	19	658.9	19	83.0	7	132.7	17	84.0	4
小金井市	591.1	1	568.3	1	569.3	2	125.1	16	124.7	15	114.3	13
小平市	631.9	9	604.4	7	602.4	8	77.9	3	87.7	7	92.2	9
日野市	596.0	2	572.7	2	565.1	1	138.9	19	78.1	5	89.4	6
東村山市	626.5	8	605.0	8	598.8	7	114.1	14	40.8	2	96.1	10
国分寺市	606.1	3	583.8	3	575.3	3	172.7	24	170.7	23	160.0	21
国立市	671.7	15	657.9	16	643.2	14	157.0	22	157.9	21	162.3	24
福生市	720.4	21	689.3	22	677.8	22	73.1	2	92.1	8	80.8	3
狛江市	642.4	12	617.5	10	605.9	9	116.0	15	142.0	20	115.6	14
東大和市	620.3	6	587.1	4	583.0	5	81.0	5	44.4	3	92.0	8
清瀬市	635.8	10	616.6	9	610.0	10	98.1	11	97.3	9	131.6	17
東久留米市	689.3	18	664.7	18	652.3	16	108.3	13	106.1	13	141.5	20
武蔵村山市	728.4	23	656.0	15	655.6	18	91.1	9	100.2	11	100.8	11
多摩市	675.9	16	648.1	14	644.1	15	127.9	17	128.3	16	134.5	19
稲城市	666.0	14	640.9	13	642.2	13	136.7	18	202.9	27	132.1	18
羽村市	773.8	26	748.2	26	726.1	25	78.1	4	99.1	10	85.4	5
あきる野市	768.6	25	736.4	25	736.0	26	149.1	21	182.1	24	160.9	23
西東京市	615.3	5	594.6	6	586.8	6	88.5	8	86.7	6	116.4	15
瑞穂町	902.5	28	866.8	28	854.9	28	94.1	10	118.6	14	104.5	12
日の出町	790.0	27	774.3	27	774.1	27	163.7	23	205.8	28	182.2	26
檜原村	1,026.9	30	1,0,47..0	30	1,010.9	30	189.4	27	242.5	30	213.5	30
奥多摩町	996.1	29	969.3	29	957.5	29	182.2	25	227.9	29	201.3	29
全体	666.6		644.0		638.3		131.0		126.0		123.7	

表２－２　ごみ種別１人１日当たり排出量（集団回収を除く）） ＜その２＞

自治体名	紙ごみ						プラスチックごみ					
	2022 年度	順位	2023 年度	順位	2024 年度	順位	2022 年度	順位	2023 年度	順位	2024 年度	順位
八王子市	240.6	11	250.0	14	241.6	14	114.5	**8**	108.0	**9**	108.1	**7**
立川市	267.3	17	307.9	24	313.7	27	136.4	16	158.5	28	181.8	30
武蔵野市	285.6	19	276.3	19	267.4	19	128.6	12	124.8	18	139.1	23
三鷹市	223.3	**4**	228.8	**8**	218.8	**5**	116.7	**9**	121.8	14	110.3	**9**
青梅市	286.7	20	300.2	23	254.6	17	157.6	25	125.8	19	154.7	27
府中市	250.4	12	219.6	**5**	230.0	**9**	99.1	**1**	93.3	**1**	103.2	**5**
昭島市	259.7	16	268.9	18	230.1	**10**	117.1	**10**	106.6	**8**	111.9	**10**
調布市	234.8	**10**	227.1	**7**	224.5	**7**	101.1	**2**	101.6	**5**	85.1	**2**
町田市	252.0	13	224.4	**6**	240.8	13	162.0	26	144.9	25	155.5	28
小金井市	224.5	**6**	213.2	**2**	227.5	**8**	101.7	**3**	100.6	**4**	101.5	**4**
小平市	323.8	26	298.5	22	284.5	23	111.9	**7**	98.9	**2**	104.4	**6**
日野市	215.4	**2**	229.2	**10**	219.2	**6**	117.6	11	119.1	12	115.2	12
東村山市	223.9	**5**	254.6	17	242.9	15	107.1	**4**	99.3	**3**	110.2	**8**
国分寺市	200.0	**1**	182.1	**1**	186.8	**1**	135.8	15	131.2	21	131.1	21
国立市	228.6	**9**	254.1	16	230.3	11	111.5	**6**	106.0	**6**	48.2	**1**
福生市	285.2	18	296.5	21	255.8	18	148.4	23	118.3	11	142.1	24
狛江市	228.2	**8**	235.8	11	248.8	16	211.7	30	133.5	22	125.9	19
東大和市	318.9	25	308.8	25	275.6	21	108.8	**5**	119.2	13	101.2	**3**
清瀬市	226.9	**7**	228.8	**9**	215.9	**3**	143.4	20	122.3	15	123.6	16
東久留米市	254.3	14	251.3	15	236.2	12	145.9	22	123.2	16	123.2	15
武蔵村山市	360.9	28	319.1	26	305.0	26	135.4	14	110.3	**10**	119.2	13
多摩市	317.4	23	282.3	20	297.2	25	140.6	18	142.1	24	122.0	14
稲城市	255.7	15	215.6	**3**	216.6	**4**	130.0	13	126.0	20	131.0	20
羽村市	318.0	24	331.9	29	285.0	24	144.0	21	106.2	**7**	131.5	22
あきる野市	304.6	21	240.6	12	275.3	20	139.9	17	140.7	23	114.4	11
西東京市	221.0	**3**	217.6	**4**	204.7	**2**	141.6	19	123.4	17	124.1	17
瑞穂町	358.8	27	372.5	30	319.7	28	185.9	29	147.1	26	177.7	29
日の出町	307.0	22	244.2	13	283.5	22	149.9	24	154.9	27	125.2	18
檜原村	399.0	29	330.9	28	368.1	30	179.3	28	189.7	30	151.8	26
奥多摩町	399.5	30	326.4	27	367.3	29	176.5	27	180.8	29	147.2	25
全体	255.9		250.3		244.9		128.7		119.7		121.2	

表３－１　　ごみ種別総資源化率（集団回収を含む）　＜その１＞

（%）

自治体名	総ごみ					
	2022 年度	順位	2023 年度	順位	2024 年度	順位
八王子市	33.8	22	33.6	21	33.4	22
立川市	44.1	**3**	37.6	**9**	38.8	**5**
武蔵野市	37.3	12	37.3	11	36.6	11
三鷹市	38.4	**9**	37.6	**10**	34.7	17
青梅市	33.3	23	32.9	23	32.7	24
府中市	38.4	**10**	38.1	**6**	37.1	**8**
昭島市	35.6	17	35.6	16	36.5	12
調布市	40.8	**6**	40.0	**5**	36.1	14
町田市	32.9	24	31.9	25	31.1	25
小金井市	48.0	**2**	48.4	**2**	47.2	**2**
小平市	38.9	**8**	37.9	**8**	37.1	**9**
日野市	39.0	**7**	36.4	14	36.8	**10**
東村山市	42.3	**4**	42.4	**3**	42.3	**3**
国分寺市	48.9	**1**	48.8	**1**	49.2	**1**
国立市	36.8	14	36.0	15	35.1	15
福生市	34.5	20	34.1	20	34.3	18
狛江市	36.0	15	38.1	**7**	37.4	**6**
東大和市	35.9	16	35.1	17	34.7	16
清瀬市	37.1	13	36.7	13	36.3	13
東久留米市	37.9	11	37.3	12	37.1	**7**
武蔵村山市	35.4	18	34.3	19	33.6	21
多摩市	33.9	21	32.5	24	33.7	20
稲城市	30.6	27	34.6	18	34.0	19
羽村市	34.8	19	33.2	22	33.4	23
あきる野市	31.8	25	28.2	27	27.0	27
西東京市	41.3	**5**	41.1	**4**	40.7	**4**
瑞穂町	30.8	26	30.2	26	30.4	26
日の出町	28.1	29	24.4	29	23.1	29
檜原村	27.3	30	23.6	30	22.3	30
奥多摩町	29.5	28	25.9	28	25.0	28
全体	37.2		36.4		35.8	

表３－２　ごみ種別総資源化率（集団回収を含む）　＜その２＞

（%）

自治体名	紙ごみ						プラスチックごみ					
	2022 度	順位	2023 年度	順位	2024 年度	順位	2022 度	順位	2023 年度	順位	2024 年度	順位
八王子市	37.5	13	34.2	17	34.2	16	33.3	13	35.0	16	34.9	12
立川市	35.2	16	29.0	26	27.3	27	39.7	**7**	32.4	17	27.5	20
武蔵野市	43.3	**6**	42.1	**7**	42.2	**5**	36.4	**10**	36.1	13	32.7	14
三鷹市	46.7	**5**	43.2	**5**	43.8	**4**	29.8	18	27.1	22	13.8	25
青梅市	31.4	23	28.8	27	31.6	22	30.0	17	40.1	**7**	32.6	15
府中市	36.5	15	39.5	**8**	35.6	15	39.0	**8**	39.5	**9**	36.0	**10**
昭島市	32.5	21	29.6	25	33.3	19	41.9	**5**	45.7	**3**	45.1	**5**
調布市	49.2	**3**	48.2	**3**	47.2	**2**	38.3	**9**	36.7	12	17.6	24
町田市	33.1	19	34.5	16	31.6	20	13.1	24	14.6	26	12.9	26
小金井市	50.4	**2**	49.8	**2**	45.3	**3**	43.2	**4**	42.2	**5**	42.1	**7**
小平市	30.0	26	30.6	23	31.2	23	32.5	14	35.7	14	34.1	13
日野市	39.8	**9**	34.9	15	36.1	12	44.0	**3**	42.1	**6**	43.3	**6**
東村山市	38.5	**10**	33.2	19	33.5	18	44.0	**2**	46.0	**2**	45.6	**3**
国分寺市	54.4	**1**	56.5	**1**	54.9	**1**	65.1	**1**	65.5	**1**	65.5	**2**
国立市	42.7	**7**	37.2	12	38.6	**8**	29.5	19	31.0	18	68.5	**1**
福生市	35.0	17	32.0	22	36.0	14	31.0	16	37.4	11	31.1	16
狛江市	47.0	**4**	44.1	**4**	40.2	**6**	6.9	29	21.8	25	23.5	23
東大和市	25.6	29	24.7	29	26.9	28	29.2	20	25.6	23	30.3	17
清瀬市	34.9	18	32.9	20	33.9	17	35.8	11	39.5	**8**	40.2	**8**
東久留米市	38.0	11	36.1	13	37.2	**10**	33.6	12	35.4	15	36.3	**9**
武蔵村山市	23.9	30	24.6	30	25.1	30	31.8	15	37.8	**10**	35.1	11
多摩市	28.3	27	29.6	24	27.5	26	25.0	22	24.7	24	29.2	19
稲城市	32.9	20	37.8	**10**	36.1	13	8.6	26	28.8	20	29.8	18
羽村市	37.8	12	33.6	18	38.0	**9**	25.1	21	28.9	19	23.9	21
＊あきる野市	37.0	14	42.9	**6**	37.0	11	7.2	28	7.4	29	9.4	28
西東京市	40.7	**8**	38.8	**9**	39.6	**7**	40.7	**6**	44.9	**4**	45.4	**4**
瑞穂町	30.1	25	27.0	28	30.5	25	22.6	23	27.4	21	23.6	22
＊日の出町	31.8	22	37.3	11	31.6	21	4.9	30	5.0	30	6.2	30
＊檜原村	27.5	28	32.6	21	26.5	29	7.5	27	7.9	28	9.3	29
＊奥多摩町	30.3	24	35.8	14	30.6	24	9.1	25	9.1	27	11.5	27
全体	37.3		36.1		35.6		31.1		33.2		31.3	

※1　稲城市は 2022 年 4 月から、狛江市は 2023 年 4 月から、容器包装・製品プラスチック一括分別収集を実施（処理手数料はそれぞれ 1 円と 2 円/ℓ）。

※2　＊印の 4 自治体は、容器包装プラスチックの全量分別収集を実施していない。

多摩地域の
ごみ減量施策を
読み解く

連載第1回

大きな減量成果をもたらした家庭ごみ有料化

ごみ減量資料室代表 / 東洋大学名誉教授
山谷 修作

1. はじめに

東京多摩地域は現在、全国一ごみの減量化が進んでいます。しかし、これまでを振り返ると、経済成長や生活様式の変化に伴うごみ量の急増により、深刻な最終処分場問題に直面した時代がありました。その打開策として、ごみ減量化の推進が重要な取組み課題と認識されるようになりました。

減量対策の強力な手段の1つとして採用され、ごみについての市民の意識変化と大きな減量効果をもたらしたのが、家庭ごみ有料化をはじめとする経済的手法の活用でした。経済的手法は各種啓発・奨励的手法や規制的手法と組み合わせて運用されています。本号から複数回にわたり、多摩地域におけるごみ減量の取組みとその成果や課題について、環境政策研究の立場から論じてみたいと思います。

2.「多摩地域有料化市の家庭系可燃ごみ排出原単位の推移表」の読み方

いきなり大きな表から入ります。挟み込みA3判の**表1**をご覧ください。これは、多摩地域の家庭ごみ有料化前後の可燃ごみ減量効果を26の市(2022年度までに全市有料化)別に一覧したもので、東京市町村自治調査会が毎年取りまとめる「多摩地域ごみ実態調査」をもとに私が作成したものです。新しい年度のごみデータが発表されるたびに追記を重ねてまとめ上げました。

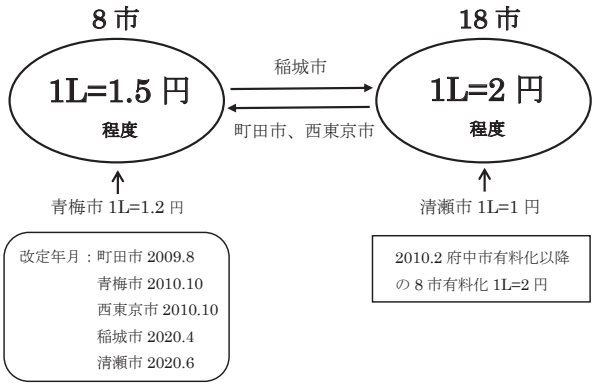
表の見方を説明します。まず最上段の年度は、多摩地域初となった青梅市の有料化実施の前年1997年度から始まり、直近の2024年度まで取ってあります。最右の「平均」の列欄は各市の有料化前年度比の有料化翌年度から直近年度までの可燃ごみ排出原単位(1人1日あたり排出量=g/人日)の年平均減量率(%)を示します。表の欄外右下には26市の平均減量率を示しました。

最左列には、有料化を実施した年度が早い順に上から下に26の市を配列しました。各市について、上段に可燃ごみ排出原単位(g/人日)、下段に有料化前年度比の減量率(%)を記載しています。一番上の青梅市を例にとると、白抜きの翌年度減量率が表記される前年度の、そして排出原単位の網掛けが始まる1998年度が有料化実施年度ということになります。

表の右欄外には有料指定大袋価格を記載し、価格改定があった市については→で価格変化を示しました。なお、大袋の容量は、45Lを採用する調布市を除く25市が40Lとしています。

大袋価格80円程度は1L=2円程度にあたり、現在このあたりの手数料水準を採用する市が18市と多数を占めています。これに対してもっと低い1L=1.5円程度の手数料を採用する市の数は8市と少なくなっています。しかし、2008年度にさかのぼると、1L=2円程度と1L=1.5円程度の市数は8市ずつと同数でした。このバランスがはっきりと崩れ、1L=2円程度に収斂する傾

図1　多摩26市有料化手数料のリバランス
＜1L＝2円への収斂傾向＞



(注)1L＝1.8円以上を「1L＝2円程度」とした。
(出所)「多摩地域ごみ実態調査」をもとに作成。

向が顕著になったのは、2009 年度の府中市有料化以降に有料化を実施した 8 市すべてがその手数料水準を採用したことによります。この間、いくつかの市で値上げまたは値下げの手数料改定が行われました。手数料リバランスの概要については**図 1** をご覧ください。

3. 可燃ごみ原単位推移表から有料化の減量効果を読む

表 1 から、多摩地域 26 市の有料化実施翌年度から直近 2024 年度までの間における家庭系可燃ごみ排出原単位の平均減量率が、－ 8.0%～－ 49.4%で分布していることがわかります。その内訳は、1桁%の平均減量率が 2 市、10%台が 9 市、20%台が 12 市、そして 30%台が 3 市でした。大部分の市で 2 桁の減量効果が出ています。

ここで、有料化実施による減量効果の大きさが、実施前の年度における減量ポテンシャルの大きさをはじめ、有料化手数料の水準、併用される資源分別拡充事業、戸別収集同時実施の有無、投入ごみが見えない鉄製ダストボックス使用の有無、市民 1 人あたり所得・資産の大きさ、コロナ禍による外出自粛の影響などによって左右されることに留意する必要があります。

有料化実施による減量効果が最も大きく出たのはごみ量の増加を招きやすいダストボックスを用いてきた日野市ですが、有料化実施前の排出原単位は 26 市中最大で、減量ポテンシャルが大きかったことがわかります。とはいえ、その後も減量率を着実に高めており、平均減量率 49%は称賛に値します。

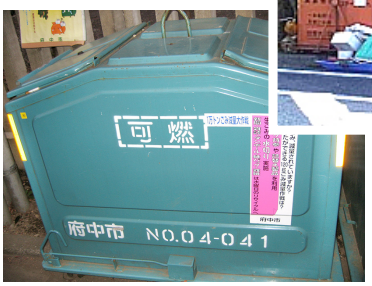
一方で、平均減量率が 1 桁と低く出たのは多摩市と小平市。多摩市の減量率が低かったのは、有料化に先立つ 2000 年 10 月に可燃・不燃ごみ収集方式がダストボックス収集から透明・半透明袋での戸別収集に見直され、可燃ごみが実施翌年度に実施前年度比 22.5%も減少するなど、有料化実施前に減量ポテンシャルがかなり縮小していたことによるとみられます。

小平市の減量効果が低く出たのは、有料化実施の翌年度が 2020 年度で、コロナ禍のピークにあたったからです。その後コロナの 5 類移行に伴い、直近の 2 年度は 2 桁の減量率が出ています。

有料化実施翌年度の減量率と直近 2024 年度のそれを比較することにより、リバウンドの有無についても確認しておきます。全 26 市のうち、直近年度減量率が実施翌年度減量率を上回っているのが 25 市、下回っており、ややリバウンド的な傾向が認められるのは1市にとどまります。大部分の市において有料化直後の減量率は直近年度まで維持または拡大しています。

有料化の減量効果は手数料水準が高いほど大きくなることが知られています。先に多摩地域 26 市の手数料水準について、1 L あたり 1.5 円程度と 2 円程度に分けられると述べましたが、その価格差で可燃ごみの減量効果にどれだけの違いが出るのでしょうか。

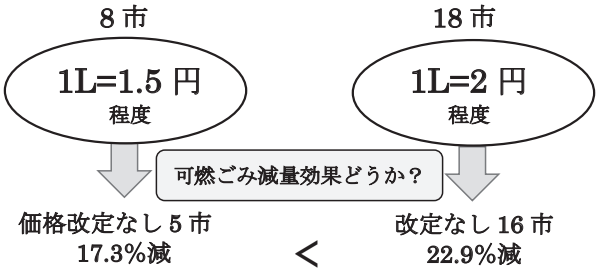
図 2 は有料化実施以降に手数料改定をしていない 21 市について、1 L=1.5 円程度の 5 市と 1 L=2 円程度の 16 市の平均減量率を比較したものです。これを見ますと、1 L=2 円程度市の平均減量率が 22.9%と、1 L=1.5 円程度市の 17.3%を上回っています。減量効果が高いことが、近年多摩地域で有料化を実施した 8 市すべてが 1 L=2 円の手数料を設定した最大の理由です。



府中市で利用されていたダストボックス

ごみ袋があふれていた
日野市のダストボックス

図 2　多摩 26 市有料化手数料と減量効果

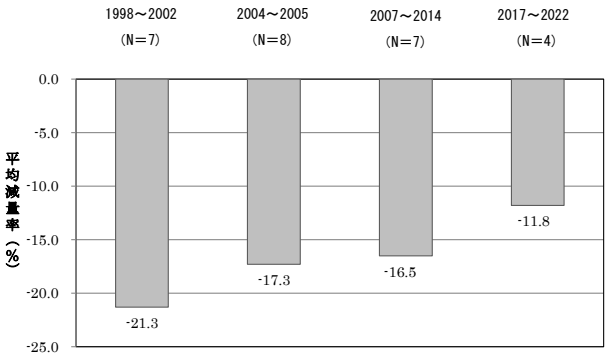


（注）1. 1L=1. 8 円以上を「1L=2 円程度」とした。
2. 減量効果は、有料化実施翌年度から 2024 年度までの全期間の有料化前年度比の平均減量率（原単位ベース）
（出所）「多摩地域ごみ実態調査」をもとに作成。

有料化実施の減量効果を経年でみると、どうなるでしょうか。**図 3** は、多摩 26 市の有料化実施時期に区分を施したうえで、家庭系可燃ごみ排出原単位の翌年度減量効果 (有料化前年度比) をみたものです。初期の有料化実施では平均して 2 割を上回る減量効果が出たものの、経年で次第に減量率が低下する傾向が認められます。

これは主として、各自治体において、① 分別・資源化の進展により、有料化の併用事業としての新たな分別収集拡充の余地が限られること、② 有料化実施前の減量ポテンシャル (その指標は家庭系可燃ごみ排出原単位) が縮小してきたこと、によるものと考えられます。なお、2017 ～ 22 年度有料化に、実施翌年度がコロナ禍のピークにあたり、減量率が小さく出た市が含まれることには留意が必要です。

図 3　多摩 26 市有料化実施時期と家庭系可燃ごみ排出原単位の翌年度減量効果



(注) 1. 有料化導入前年度比の翌年度平均減量率を 4 期に区分して表記。
2. 横軸の数字は有料化実施年度、カッコ内の N は時期別の有料化実施市数。
(出所)「多摩地域ごみ実態調査」より作成。

かりに多摩地域を人口約 425 万人の1つの県域とするなら、環境省データは、多摩地域がごみ減量の取組みにおいて都道府県のトップランナーであることを示しています。

2023 年度に、県別の1人1日当たりごみ排出量最少は京都府の 749 gですが、多摩地域のそれは 679 g でした。多摩地域の排出原単位は全国平均の 851 gを大きく下回っています。また、リサイクル率最高は岡山県の 29.0%ですが、多摩地域のそれは焼却灰エコセメント化も効いて 36.4%でした。多摩地域のリサイクル率は全国平均の 19.5%を大きく上回っています。

最後に、**表 2** により、2023 年度における 3R 取組上位市 (人口10 ～ 50 万人未満) を見ておきましょう。トップテンのうちリデュース指標では 8 市を多摩地域都市が占め、リサイクル指標でも半数の 5 市が多摩地域都市でした。また都市人口区分 50 万人以上では、八王子市がリデュース指標で 1 位でした。

表 2　2023 年度 3 R取組上位市（人口 10 ～ 50 万人未満）

	リデュース(g/人日)		リサイクル(%)	
1 位	日野市	585.6	鎌倉市	58.5
2 位	掛川市	595.0	倉敷市	47.3
3 位	小金井市	595.2	国分寺市	44.9
4 位	西東京市	626.1	小金井市	44.8
5 位	小平市	626.8	加須市	37.6
6 位	府中市	634.9	小牧市	36.9
7 位	藤枝市	636.9	東村山市	35.9
8 位	東村山市	639.0	西東京市	33.6
9 位	国分寺市	642.2	調布市	33.2
10 位	三鷹市	649.7	横須賀市	32.3
	(多摩都市比率 8 市/10 市)		(多摩都市比率 5 市/10 市)	

(出所) 環境省「一般廃棄物処理事業実態調査の結果について」

4.「減量化先進地域」を環境省のとりまとめで確認する

主として家庭ごみ有料化など経済的手法の積極的な活用が功を奏し、多摩地域は「ごみ減量の先進地域」として知られるようになりました。そのことを環境省が毎年発表する「一般廃棄物処理事業実態調査の結果」で確認しておきます。なお、そこでの「ごみ」には、家庭系のごみ・資源だけでなく、事業系ごみ、集団回収資源も含まれています。

5. 実効性高い施策がごみ減量成果をもたらした

多摩地域においてこうしたごみ減量成果がもたらされた背景として、最終処分場の制約が強まる状況のもとで、ごみ減量の必要性が強く認識され、減量推進のための制度的な枠組みとして比較的高い手数料水準での家庭ごみ有料化や事業系ごみ手数料の適正水準への改定、分別の適正化を促す戸別収集方式の導入など実効性の高い施策が市民や事業者の協力を得て実施され、ほぼ全域に広がっていったことが挙げられます。

田口理穂＊ドイツのエコあれこれ　№50

戦後80年の広島・長崎訪問記
「自分ごととして考えよう」

Ｋ君と明も加わった原爆落下中心地碑での高校生たちの人間の鎖
明は新聞にコメントも載せてもらった（16ｐ掲載）

今年は終戦80年。明のクラスメートで、日本ファンのＫ君が夏休みに日本へ遊びに来ることになったので、一緒に広島と長崎に行くことにしました。

ドイツでは原爆については歴史の教科書に数行出てくる程度で実態は知られていません。だから明とＫ君は「若者が広島と長崎を訪れて平和について考え、若者向けにビデオを作成する」ということで、ハノーファー市から補助金をもらいました。

明とＫ君はまず長野県で高校に通い、10日間東京、3日間大阪を堪能。そして８月５日から私と一緒に広島へ向かいました。日独平和フォーラムの山本健治さんや南ドイツからのドイツ人夫妻など総勢10人で被ばく者の話を聴き、平和公園の碑巡りをしました。

原爆投下時に２歳だった山田寿美子さんは、原爆についての記憶はありません。しかし親を亡くして、たらい回しにされた親戚の家での大人たちの冷たい仕打ちには「今思い出しても屈辱的で涙がでる」と語ります。戦争は人々の体を傷つけるだけでなく、家族から引き離し、大事なものを失わせ、日常を奪ってしまうことだと感じました。「原爆のことを聞きたくないという人もいるけれど、これは現在進行形の問題。今の若者が頑張らないと将来どうなるかわからない」と警鐘を鳴らします。

長崎では、長崎人権平和資料館の園田尚弘さんや国武雅子さんのお力添えで、原爆をテーマにした演劇を作って上演している長崎南山高校演劇部や長崎大学の学生たちと討論しました。

そこでＫ君が「原爆を落としたアメリカに憎しみや怒りがありますか」と質問すると、生徒たちは驚いたよう。そのように考えたことがなかったからです。

「憎しみや怒りはない。原爆について伝えていく」「日本が何をしてきたか考えると、怒りは感じない」という意見が出た他「悲しみを感じる。できることは何かと考える」「家族や親戚を亡くした悲しみを曾祖父の話で知った。原爆を許してはいけない」という声がありました。

「落とされた側の視点ばかり教られてきた」という生徒もおり、原爆がどれだけ悲惨な結果をもたらしたかを強調するだけでは、世界は変わらないという現実を実感しているようでした。

原爆投下当時６歳だった城臺（じょうだい）美彌子さんは、障害を持って生まれた孫が亡くなるという体験をするまでは、自分が被ばく者だと思っていなかったそうです。1998年にインドとパキスタンで核実験があった際に、何も知らないお母さんが赤ちゃんを抱いて実験を見物する映像を見て驚き、「核の恐ろしさを伝えなければ」と感じたそう。「孫を亡くした怒りや悲しみを力に変えたい」それが出発点でした。また森口正彦さんによる、原爆の影響で身近な人に奇形児が生まれた話も重く響きました。

８月９日は長崎南山高校の平和集会に参加しました。5､6人のグループで、平和記念像など平和のシンボルを知らない人にどう説明するかという課題に取り組みました。

全国高校生平和集会では140人が核抑止や核廃絶について議論し、明も最後にひとこと発表する機会を得ました。

今回さまざまな高校生の討論を聞き、話の要点は以下のようだと思いました。

平和とは…戦争がない、差別がない、いじめがない。

平和で「あること」とは…ごはんが毎日食べられること、家族や友達といられること、自由があること、教育が受けられること､家があること｡そこに、城臺さんがこう付け加えました。「夜、安心して眠れること」。

そして高校生たちが言いたいのは…

「我々は　被爆者から直接話を聞ける最後の世代」「聞いたことについて考え続ける、周りに伝えていく」「そして、核廃絶や戦争反対のために実際にどう行動に移すかだ」

だから、とにかく「戦争のこと、原爆のことを自分ごととして考えよう」「身近なところから平和は始まる。だから身近な人を大事にしよう」

また、被団協の田中熙巳（てるみ）さんがラジオで下記のように話しており、至極もっともだと思いました。

- ノーベル賞を被団協が受賞したのは、核兵器を使わせないという声を世界に広げるためだろう。
- 原爆の悲劇を継承するだけでは足りない。自分で考えて行動すること。
- 核抑止とは核兵器を持っている国は強いままで、持っていない国を強くさせない仕組み。

ロシアやイスラエルの例で、力の強いものに攻め込まれたらなすすべがないという事が明らかになり、暴力をやめ、話し合いで解決しようという人々の長年の尽力が、一瞬で無に帰してしまった。

対抗する道があるとすれば連帯しかありません。ひとりひとりは無力でも仲間をつくれば、大きいものにも立ち向かえるかもしれない。

高校生平和大使が「微力だけど無力じゃない」をモットーに、核廃絶運動をしているのはまさに理にかなっています。若い世代が真剣に取り組む姿に希望を感じました。

ごみかんドイツ特派員　**田口 理穂**

さらなる ごみ資源化を 進めるには

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員　小野寺 勲

さらなるごみ資源化を目指すきっかけとなるように、多摩地域 6 自治体の実施した詳細なごみ組成調査により、可燃ごみと不燃ごみへの資源物や資源化可能物の混入状況を見える化しました。

可燃ごみでは、6 自治体での組成を平均すると、資源物が 22%、資源化可能物が 43%を占めています。

資源物では、容器包装プラスチック、雑紙、古布が目につきます。また、資源化可能物としては、生ごみや紙おむつとともに、組成調査では検出されない廃食用油が含まれています。

表 1　多摩地域 6 自治体における可燃ごみの組成（湿ベース・重量比）　（%）

自治体名			武蔵野市	小金井市	小平市	東村山市	武蔵村山市	多摩市	平均
組成調査実施年度			2021	2019	2024	2019	2023	2023	
可燃性資源物	古紙	新聞・折込チラシ	1.1	2.3	0.0	0.9	0.2	1.5	1.0
		雑誌・書籍	0.7	0.9	0.6	1.2	0.3	0.4	0.7
		雑紙	3.8	7.4	5.9	5.1	2.0	7.5	**5.3**
		段ボール	0.2	1.0	0.3	0.4	0.2	1.4	0.6
		紙パック	1.1	0.5	0.3	0.6	0.4	0.9	0.6
		小計	6.9	12.1	7.1	8.2	3.1	11.7	8.2
	プラスチック類	ペットボトル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1
		容器包装プラスチック	2.8	9.8	6.9	1.0	7.1	17.7	**7.6**
		製品プラスチック	0.5	1.1	4.1	1.7	1.8	3.1	2.1
		小計	3.4	11.0	11.1	2.8	8.9	21.0	9.8
	古布		6.9	1.4	2.0	1.8	3.9	2.6	**3.1**
	剪定枝		0.2	0.5	0.9	0.5	0.0	0.5	0.4
	計		17.4	25.0	21.1	13.3	15.9	35.8	21.5
不燃性資源物	缶		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	びん		0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
	金属類		0.0	0.1	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2
	小型家電		0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	計		0.1	0.1	0.5	0.3	0.1	0.4	0.3
資源物計			17.5	25.1	21.6	13.6	16.0	36.1	21.8
資源化可能物	生ごみ		39.2	41.8	35.9	43.5	47.8	23.5	**38.6**
	紙おむつ		3.2	3.6	6.8	5.9	3.4	0.0	**3.8**
	靴・かばん・ベルト・ぬいぐるみ		0.9	0.1	0.0	0.0	2.1	1.4	0.8
	陶磁器		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ガラス類		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計		43.3	45.5	42.7	49.4	53.3	24.9	43.2
資源化できない可燃ごみ			39.3	28.6	35.4	35.9	30.5	39.0	34.8
資源化できない不燃ごみ			0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
有害ごみ・粗大ごみ・収集不適物			0.0	0.6	0.1	1.0	0.0	0.0	0.3

一方、不燃ごみには、6自治体での平均で、資源物が54%、資源化可能物が25%混入しています。

資源物では、製品プラスチック、金属類、小型家電、また、資源化可能物では、陶磁器、ガラス類、靴・かばん・ベルト・ぬいぐるみの混入が目立ちます。

ごみ減量に向けて、さらなるごみ資源化を進めるには、資源物の分別排出を徹底するとともに、資源化可能物の分別収集・資源化に積極的に取り組んでいく必要があります。

また、資源物の分別排出を促すための啓発においては、ごみへの資源物の混入状況や資源物のゆくえを見える化することによって、資源物の分別排出の必要性を実感してもらうことも大切です。

表2　多摩地域6自治体における不燃ごみの組成（湿ベース・重量比）　（%）

自治体名			武蔵野市	小金井市	小平市	東村山市	武蔵村山市	多摩市	平均
組成調査実施年度			2021	2019	2024	2019	2023	2023	
可燃性資源物	古紙	新聞・折込チラシ	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
		雑誌・書籍	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
		雑紙	0.3	1.0	0.3	1.0	0.1	0.2	0.5
		段ボール	0.3	0.2	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1
		紙パック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		小計	0.6	1.3	0.3	1.3	0.1	0.4	0.6
	プラスチック類	ペットボトル	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1
		容器包装プラスチック	0.4	6.0	3.2	0.8	1.4	3.3	2.5
		製品プラスチック	5.9	20.3	37.0	27.6	26.0	6.4	**20.5**
		小計	6.3	26.4	40.3	28.4	27.4	9.8	23.1
	古布		0.0	0.1	0.2	0.5	0.1	0.2	0.2
	剪定枝		0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1
	計		6.9	28.0	40.8	30.3	27.6	10.4	24.0
不燃性資源物	缶		0.3	0.5	0.5	0.8	0.0	1.3	0.6
	びん		1.5	1.0	3.1	1.3	0.5	6.2	2.3
	金属類		34.1	6.4	12.8	11.5	14.2	11.6	**15.1**
	小型家電		32.6	10.1	3.2	5.3	17.7	0.0	**11.5**
	計		68.4	18.0	19.6	18.9	32.4	19.1	29.5
資源物計			75.3	46.0	60.4	49.2	60.0	29.5	53.5
資源化可能物	生ごみ		0.4	0.5	0.1	0.9	0.0	1.0	0.5
	紙おむつ		0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	靴・かばん・ベルト・ぬいぐるみ		1.8	12.5	0.0	4.4	5.3	0.5	**4.1**
	陶磁器		11.0	6.8	10.7	9.0	18.0	27.6	**13.9**
	ガラス類		5.0	4.4	3.9	4.0	0.0	19.3	**6.1**
	計		18.2	25.3	14.7	18.3	23.3	48.4	24.8
資源化できない可燃ごみ			2.5	20.0	20.7	18.8	9.4	9.1	13.4
資源化できない不燃ごみ			3.2	6.5	2.4	2.3	5.8	11.6	5.3
有害ごみ・粗大ごみ・収集不適物			0.7	2.3	1.6	11.4	1.2	1.4	3.1

ごみかんよりお知らせ

うんざりする猛暑の日々もようやく終わり、季節は秋へ。日暮れがずいぶん早くなりましたね。

今回、会員の皆様には、大事な手紙を同封しました。いつか必ず来る「会を閉じる日」。同封の手紙にも書いていますが、ごみかんは 1998 年 5 月の設立から来年には 28 年になり、発足のきっかけとなったフォーラムの準備会からちょうど 30 年になります。

その時点から関わってくださった会員さんや私たち運営委員も、当然高齢になり、責任を持った終わり方をしようと考えて、8 月の運営委員会で結論を出しました。2026 年 3 月、今年度末のごみっと・SUN vol.54（通算 174 号）が最終号となります。

全国にいらっしゃる 100 名を超える会員さんに支えていただいたごみかんの活動です。突然のお知らせで驚かれたことと思いますが、これからあと半年、皆さまのご意見も伺いつつ、ゴールを目指してまいりますので、どうぞご理解の程よろしくお願いいたします。（E）

最終回 市民ごみ大学セミナー

11 月 1 日（土）14：00 ～ 16：30

小金井市市民会館（萌え木ホール） JR 武蔵小金井駅南口徒歩 7 分

ごみかんは、東京都西多摩郡日の出町にある「私たちのごみ」の最終処分場問題をきっかけとして発足したので、設立当時から「多摩地域のごみをいかにして減らすか」が命題でした。
この最終回のセミナーでは原点に戻って、ごみ減量効果の大きいリサイクルで先進的な取り組みをしている3つの自治体をお呼びします。
その取り組みは、多摩地域はもちろん全国の自治体にも大変参考になるでしょう。
どうぞ奮ってご参加ください !!

登壇

① 小金井市環境部 ごみ対策課長　今井 哲也 さん
② 国分寺市建設環境部 ごみ減量推進課長　栗原 洋 さん
③ 西東京市みどり環境部 資源循環推進課長　西川 毅 さん

参加費：会員／学生 無料　一般 500 円

当日の参加も可能ですが、できるだけメールか FAX で申し込みをお願いします。
メール gomikan21@yahoo.co.jp　＊件名：ごみ大学申し込み
FAX　042-383-1668

＊いの＊の つぶや記

10年以上、ある市民グループの通信を年に2、3回、50軒ほどのお宅の郵便受けに配達していますが、前回は暮らしていらしたのに、次に行った時には空き家になっていたり、更地になっていたり。新しい家が建って別の表札がかかっていたり。あるいは主はいても手入れがされず、庭木や雑草に覆われている家もとても多くなってきました。9月半ばにも配達しましたが、今回は特に、配れないおうちが多く、ひしひしと高齢化を感じました。

そんな家や更地を見ると、これまでは悲しく思ったものですが、私自身が70才を過ぎ、人生の終盤に差しかかったら、ちょっと見え方が変わってきました。人の気配が消えゆくと同時に家や土地が植物に飲みこまれていくのも悪くない、と思えるようになってきたのです。

森羅万象に終わりがある…と、ちょっと感傷的になっていたのは、ごみかんの事があったからです。ごみかんも終わりにしよう、きちんと閉めよう、そうみんなで決めた時、寂しさと清々しさを同時に感じました。

ごみかんの会員さんは各地でごみ問題やその他の社会問題に向き合い、活動してきた方が多いと思います。60～80才代、このあたりがごみかん世代でしょうか。当時30～50才代だった私たちは、高度成長期を経て仕事や子育てをし、市民活動にのめり込む理由や条件が揃っていたと思います。なので、まったく同じような活動を今の30～50才代には求めることはできませんが、彼らは別の形で同じ思いを引き継いでくれると信じたいです。

13ページに載せ切れませんでしたが、広島と長崎を訪れた理穂さんの息子さん、明君のコメントが読売新聞に掲載されましたので紹介します。

「普通の高校生でも平和の思いを届けられるのだと勇気をもらった。被爆者が少なくなる中、若い世代が核廃絶の思いを引き継いで平和な社会を築いていきたい」

表紙イラスト 間違い探しの答え

①入道雲がうろこ雲に
②右の大きな木の葉の色が黒からグレーに
③右の大きな木の下の猿の有無
④中央の登山者が半ズボンから長ズボンに
⑤手前の登山者が半袖から長袖に
⑥手前の登山者の手にステッキの有無
⑦右下のもみじの葉の有無

ごみ・環境ビジョン21

年会費＝ 個人会員 3,000 円　団体会員 6,000 円
賛助会員 10,000 円（一口）

郵便振替　口座名：ごみ・環境ビジョン 21
口座番号：00130-1-603521

◆ごみっと・ＳＵＮのお受け取り方法は
①ヤマト運輸の DM 便
②メール添付でのＰＤＦ配信　の二つがあります。
②をご希望の方はメールにてお申し込みください。

◆振替用紙にはご住所・お名前・お電話番号 (FAX) をご記入ください。また、住所変更があった場合はお知らせください。

◆記事を転載する場合はご連絡ください。